

令和4年度第1回小牧市生涯学習審議会議事要旨

【1】 開催日時 令和5年2月15日(水) 午前10時から午前11時30分

【2】 会場 小牧市役所東庁舎 4階 本会議用控室

【3】 出席委員 9名
竹中会長、後藤副会長、野村委員、志村委員、
水野委員、坂廻辺委員、関委員、紺藤委員、鳥居委員、

【4】 事務局 11名
中川教育長、入江健康生きがい支え合い推進部長、
江口健康生きがい支え合い推進部次長、
藤田文化・スポーツ課長、松浦東部市民センター所長、
水野北里市民センター所長、
高木こまき市民文化財団次長、大森社会教育指導員、丸藤文化・スポーツ課事業推進係長、
大橋文化・スポーツ課施設運営係長、
紀藤文化・スポーツ課事業推進係主査

【5】 傍聴者 なし

【6】 内容

【文化・スポーツ課長】

只今から令和4年度第1回小牧市生涯学習審議会を開催いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます文化・スポーツ課長の藤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開となっております。本日の傍聴人はありません。

また、中川委員、梶田委員より欠席の連絡をいただいております。本日は委員9名が出席でありますので、規定により会議は成立しております。

また、小牧市小中学校PTA連絡協議会の推薦により、紺藤委員が就任されております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本審議会の事務局は、文化・スポーツ課が務めておりますが、関連の市民センターまた、オブザーバーとしてこまき市民文化財団が出席していますのでご承知おきください。

それでは、最初に教育長の中川より挨拶を申し上げます。

1. あいさつ

【中川教育長】

小牧市教育長の中川でございます。本日は、大変お忙しい中、本審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、日頃はそれぞれのお立場で、本市の生涯学習の推進にご尽力をいただいております、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスにつきましては、終息まではほど遠く、市民生活に影響をあたえてから3年がたちます。そのような中ではありますが、今年度は、少しずつ、コロナ禍前の状況を取り戻すべく、さまざまなイベントや行事がコロナ対策を講じながら再開されてまいりました。

文化のイベントで言いますと、秋の小牧山薪能を3年ぶりに小牧山で開催することができました。また、地域3あい事業などの地域の学習活動も少しずつではありますが、再開してきていると感じています。

今後につきましても、感染状況等には十分注意を払う必要がありますが、文化や生涯学習活動をととして市民の皆様が生き生きと生活を送っていただけるよう、環境の整備に努めていく必要があると考えております。

また、文部科学省は、学校部活動を地域へ移行させるように全国的に通知を出しました。運動部活動が先行して議論が進められている感がありますが、文化部においても吹奏楽部をはじめ、指導者の確保、教員の多忙化、生徒の安全、費用負担の問題など多くの課題が山積しております。

本市におきましても検討委員会を設置し、丁寧に議論を進め、方向性を示していきたいと考えております。

本日の議題は、「令和4年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」についてでございます。皆様から忌憚のないご意見を伺い、本市の生涯学習行政の推進を図ってまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

【文化・スポーツ課長】

それでは、次第2の議題に移ります。議題の進行につきましては、規定により、会長が会務を総理することになっておりますので、竹中会長、よろしくお願いいたします。

【竹中会長】

それでは、次第2の議題に入ります。令和4年度事務の管理・執行状況の点検及び評価について、事務局より説明をお願いします。

【事業推進係長】

資料1の1ページをご覧ください

最初に、この点検評価と教育委員会基本方針重点施策について簡単に確認をさせていただきます。教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、毎年、点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、議会への提出、公表が規定されています。

本市では、平成29年3月、「小牧市教育振興基本計画」を、平成29年度から令和8年度までの10年間の計画を策定し、令和3年度の間見直しを経て、令和4年度から令和8年度の計画が現在進められています。

基本計画にある事業から、年度ごとに重点施策を選定し、分野ごとに設置された審議会等で点検評価を実施していただきます。

それぞれの審議会等でいただいたご意見等を反映した実施状況は、最終的には基本計画の評価委員会ですべての事業とあわせて点検評価がされるという流れとなっております。この審議会では、文化・スポーツ課の所管する生涯学習及び文化に関連する基本目標5、基本目標7について、ご意見を願いますので、よろしくお願いいたします。

資料を1枚おめくりいただき、2ページをお願いします。

基本目標5と基本目標7の評価指標の推移になります。令和4年度については、まだ実績がでておりませんので、令和3年度までをお示しさせていただきました。基本目標5では、生涯学習に関連する指標であります。生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合は、令和3年度実績で28.2%となっており、まだまだ、十分な数値を示しているとは言えない状況であります。

また、基本目標7の日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合は、令和3年度実績で51.8%であり、基準値から若干上昇しているものの、さらに高めていく必要があります。

その他、コロナの影響を受けて、大きく落ち込んでいる数値もありますが、目標値を達成できるように、それぞれの事業を推進していく必要があります。

続いて、3ページをお願いします。

この表は、該当の令和4年度の基本方針重点施策の一覧になります。基本目標5として5つの取組を、基本目標7として4つの取組を掲げております。

それでは、その取組を個別にご説明させていただきます。

4ページをお願いいたします。

「基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり」の具体的な取組として、施策21「市民講座の実施」です。

内容としましては、別添資料をご覧ください。資料1-1として、市民企画講座の実施状況であります。市民自らが企画運営する市民企画講座の講師を募集し、市公民館、3市民センターで40講座を企画いたしました。また、資料1-2をご覧ください。公民館主催の講座、ワークショップの実施状況でございます。短期講座や、大学連携講座、企業との連携講座等を実施しました。

資料1-3をご覧ください。市民企画講座の応募状況におきましては、新型コロナの影響もあり特に令和3年度は大きく落ち込みましたが、令和4年度は回復傾向が伺えます。また、受講者の年齢層については、以前から状況は同じですが、比較的高い年齢の方がしめている状況です。しかしながら、20代、30代にも熱心な受講者もあり、若い世代や働く世代にも主体的に学ぶことの楽しさを伝えていく必要があります。周知については、さまざまなアプローチをして、まずは、講座に興味を持ってもらう必要があります。また、ウィズコロナの状況は、しばらく続くことも想定されますので、状況に

応じてオンライン開催なども対応できるように人材の育成等に取り組んでいく必要があります。

【施設運営係長】

続きまして、5ページをお願いします。

施策21「公民館等の生涯学習施設の環境整備」です。

内容としては、公民館等の生涯学習施設の施設老朽化等に対応し、施設整備の修繕を行います。また、文化活動や学びの拠点である市公民館の展示場について展示機能の充実など多様なニーズに対応できるよう、改修・更新工事を行います。

令和4年度に各公民館で実施した改修工事及び設計について説明させていただきます。市公民館については、市公民館トイレ、講堂舞台機構、講堂天井等の更新工事の設計及び展示場・講堂の展示機能の充実を図るための改修工事の設計を行いました。中部公民館については、冷温水発生機等更新工事の設計を行いました。東部市民センターについては、館内給排水管工事（和式便器の様式化）、講堂の手動吊物機構取替、昇降機更新工事、外壁改修工事を行い、現在も一部継続中です。味岡市民センターについては、冷温水発生器の修繕、学習室・多目的室の全熱交換器更新工事及び滑り出し窓の修繕を行いました。

今後の課題といたしましては、市民会館とあわせて市公民館の大規模改修工事は令和5年11月から1年間程度の予定をしているため、利用団体の日頃の活動にできる限り影響がでないよう、活動場所の確保に配慮し、令和5年夏頃に決定する予定の工事業者と工事スケジュールの調整を行っていきたいと考えております。大規模改修工事の内容につきましては、後の施策32「文化・芸術施設の環境整備」の個所にてご説明させていただきます。

続きまして、6ページをお願いします。

施策21「新施設予約システムの導入」です。

令和5年1月の新施設予約システム稼働に向け、利用者への周知及び事前利用者登録の促進を行ってきました。その結果、令和4年12月末時点で、1,500を超える団体及び800を超える個人利用者の事前登録があり、利用者に新しいシステムをスムーズに利用していただくことができました。

新施設予約システムで新たに導入された主な機能としては、スマートフォン等からのオンライン予約、クレジットカードによるオンライン決済、オンラインでの抽選申込などの機能があります。課題といたしましては、インターネットへの接続環境がない利用者やスマートフォンの操作が慣れていない利用者が不便にならないよう運用等で対応していくことです。

今後の取り組みといたしましては、システム稼働後に利用者より寄せられたご意見を基に、利用者にとってより良いシステムになるよう改善していきたいと考えております。

続きまして、6ページをお願いします。

施策21「新施設予約システムの導入」です。

令和5年1月の新施設予約システム稼働に向け、利用者への周知及び事前利用者登録の促進を行ってきました。その結果、令和4年12月末時点で、1,500を超える団

体及び800を超える個人利用者の事前登録があり、利用者に新しいシステムをスムーズに利用していただくことができました。

新施設予約システムで新たに導入された主な機能としては、スマートフォン等からのオンライン予約、クレジットカードによるオンライン決済、オンラインでの抽選申込などの機能があります。

課題といたしましては、インターネットへの接続環境がない利用者やスマートフォンの操作が慣れていない利用者が不便にならないよう運用等で対応していくことです。今後の取り組みといたしましては、システム稼働後に利用者より寄せられたご意見を基に、利用者にとってより良いシステムになるよう改善していきたいと考えております。

【事業推進係長】

7ページをお願いします。

基本目標5、施策22「生涯学習を推進する人材育成講座の開催」です。学んだ成果を地域活動などに活かしていただくための人材育成講座をワクティブこまきと連携して、実施をしております。

先ほど、ウィズコロナの中で、オンラインにも対応できる人材の育成が必要だとお伝えしましたが、表のとおり講座を開催いたしました。

今後の育成講座の課題といたしましては、講師スキルが異なる方への内容やテーマの設定や学んだ成果をどのように地域活動へつなげていくかということです。地域協議会や自治会とも連携して、生涯学習を推進する人材の掘り起こしをしていくための講座等を検討してまいります。

8ページをお願いします。

基本目標5、施策24「こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携」です。こまなびサロンとワクティブこまきがさまざまな形で連携し、市民活動団体と生涯学習団体とのかかわりを促進してまいりました。

こまき団体情報ガイドブックとして、市民活動団体と生涯学習団体の団体情報を共有してデータベース化しておりますが、より多くの生涯学習団体に登録していただけるよう、働きかけを行っていきます

【竹中会長】

事務局から基本目標5の関連について説明が終わりました。何かご意見・ご質問はございませんか。

【後藤副会長】

2ページのところで、先程ご説明があった、基本目標7の小牧市文化協会加盟団体の団体数が基本計画の評価指標の一つになっているのですが、文化協会の内容、中味は御承知のように、茶道、華道色々な教室のお師匠が集まっておられるところが多いわけですね。実際には6割以上だと思います。いわゆる市民活動と言われているところは、私共の音楽連盟であるとかですね、あるいは以前の生涯学習課が作られた講座から自発的に色々な活動をされているところがたくさんあるじゃないですか。つまり文化協

会に入っておられない団体こそ本当の市民活動の団体数じゃないかと思います。本来はこういうものが市民活動の大事なことだと思います。極論すれば、あの珠算連盟だってピアノ教室だって文化と言えればそれまでのことですけれども、そう言い出すときりがないわけですね。文化協会加盟団体数が一つの指標であることはよく分かるのですが、一般の方が頑張っておられる形が何とか反映していただくのが本来であるし、小牧の文化を適切に表すのではないかと思います。

もう一点は、先程教育長もおっしゃられた、ここでの会が評価委員会に結び付く意見ということについてですが、先般送っていただいた令和4年度の小牧の教育を見て、令和3年度はこの会は6月に行われて、3月は開かれずに、委員の皆さんが文書でご意見を送った。私も出させていただいて、そしてそれについての回答が事務局からありましたが、私共の意見がこの評価委員会にどのように反映されているかというのがよく分かりません。そのことを少しご説明いただきたいと思います。私共がこうやって意見を言っていることが、この評価委員さんにきちんと伝わっているのか。あるいはこの会議の会議録を読んでいただいた上で評価されるのか、そういう仕組みがしっかりされているのならば、ここでの議論も意味あることだと思います。結果的に評価をするベースとして、この生涯学習あるいはスポーツ審議会があると思いますが、その最終的なまとめとして評価委員会があるとすれば、そこにパイプがうまく繋がっていただけるようお願いしたいのでご意見をいただきたいと思います。

【竹中会長】

事務局お願いします。

【事業推進係長】

1点目の指標の関係ですが2ページの文化協会の加盟団体の団体数ということで、これだけが活動の指標ではないのではないか、一般市民の活動こそ、小牧の文化を表すのではないのかという趣旨のご意見だったと思います。あくまで、文化振興の目標の一つの指標としてお示しをさせていただいておりますので、その他、公民館の利用団体数、市民の主体的な文化活動、生涯学習活動等についても、しっかりと支援し、活性化を図っていく必要があると考えております。

2点目の昨年度3月の生涯学習審議会につきましては、書面協議という形で、コロナの関係で実施出来なかったところではありますが、委員の皆さまからは、資料をご覧いただいた上で、ご意見をいただいております。それがどのように評価委員会に伝わっているのかということではありますが、この生涯学習審議会でご意見等いただいたそれぞれの施策に対する課題や今後の取り組みについてのご意見には、しっかりこの生涯学習審議会のご意見を反映させて、評価委員会に提出しておりますのでご理解をお願いします。

【水野委員】

令和4年度事務の管理・執行状況の点検及び評価の2ページですが、今、文化協会の加盟団体の団体数についてご質問があったのですが、基準値というものがあります。さきほど説明で生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合、これが基準値28.4%に対

して28.2%とちょっと割っている、また、基本目標7の日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合が、基準値50.7%に対して令和3年で51.8%になっています。この基準というのはどのような数値から持ってきているのか、どのような考え方なのか、それから目指す方向性は基準値よりも上というような矢印で書いてある。受講者数は1万人と、その他はそれを上回る数値が目標値ということになっていますが、この辺の考え方ですね。それで、去年の資料を見てみますとこういう項目は無かったです。その前は令和2年度の実績のところ少し比率が記載されていたと思いますが、カテゴリーが違ったような気がします。基準値によっては次の期の重点施策に入ってくるべきであると思うので、この基準値の考え方を、お聞かせいただきたいと思います。

【事業推進係長】

基準値につきましては、最初にお話させていただきました教育振興基本計画の中間の見直し策定時の実績が基準値となっております。

また、目標値につきましては、具体的に数値が示してあるのが生涯学習の受講者数のみとなっており、その他は矢印で上向きの目標という点ですが、生涯学習及び文化の振興につきましては、具体的に数値で設定することが非常に難しい分野でもあり、総合的に施策を取り組んでいく中で今の基準値よりもさらに上向きに上昇させていくという目標となっております。

また、昨年この審議会の中でこういった指標の項目というのは無かったということで、その考え方ということでお尋ねをいただきました。今回資料を作成させていただく上で、教育振興基本計画に基づいて施策を進めていくうえで、指標管理ということについてはかなり重要な位置づけだろうと考えました。今回お示しさせていただいた上で、今委員にもお尋ねいただいた通り、数値が伸び悩んでいるところはより力を入れてだとか、そういった強弱をつけるうえでも重要な指標になっていると思いますので、今回お示しさせていただいたものでございます。

【竹中会長】

その他質問があればお願いします。

【関委員】

今回ワクティブの連携の講座をさせていただいて、私たちも普段、市民活動団体さんを対象に行っておりますが、生涯学習団体さんもお参加いただいて、非常に多岐にわたる活動の方たちにお集まりいただいたので、私たちも非常に良い事業ができているということで、お礼を申し上げたいと思います。

それから、来年度から改修工事が始まるということで、ワクティブをご利用いただく団体さんも増えると思います。その辺りのすり合わせをまた今後ともよろしく願います。

質問ですが、資料1の3にあります受講者の年齢層についてですが、高齢の世代の方が非常に多いようですが、10代、20代、30代の若年層の方たちが参加されている

講座が、それぞればらつきがあるのか、それとも何か一つの講座にまとまっていたのか、その辺りを分かる範囲で聞かせていただけるとありがたいです。

【事業推進係長】

ご覧いただいた通り50代以上の比較的高齢の方の受講者が多いというのは、過去からの傾向でございます。先程説明の中でもお伝えいたしました、20代、30代、働く世代においてもかなり熱心な受講者がみえることは確認しておりまして、こういった講座に分布、参加をされているのかにつきましては、本日お配りさせていただいた「こまなび」という冊子をご覧いただければと思います。色々な多岐にわたる内容の講座が用意されていますが、内容によって世代の分布、参加の違いが出てきています。若い世代にも、生涯学習に取り組んでいただきたいということで、各公民館では実施する時間帯などを変えたり、育児をしている方に対しては託児を付けるなど工夫をしています。そういった講座には若い方の受講も増えてきている状況であります。

【竹中会長】

その他質問がありましたらお願いします。

【水野委員】

資料1の1ですが、公民館名の欄に「こまなび」という表記があります。これは、市の公民館と中部公民館ではないかという気がしますが、次のワークショップ実施状況には公民館名の欄に「市公民館」という表記になっています。使い分けする意味はあるのでしょうか。

【事業推進係長】

資料の表記についてのお尋ねですが、資料1の1の「こまなび」につきましては、ご指摘のとおり「市公民館」及び「中部公民館」、こまき市民文化財団が企画する講座になります。味岡、東部、北里につきましてはそれぞれのセンターで企画する講座です。資料1の2と1の1で表記が異なりますが、特に違いはありません。

【竹中会長】

その他ありましたら。

【志村委員】

資料1の令和4年度点検項目、施策の22と24ですが、22が「生涯学習を推進する人材育成講座の開催」、24が「ワクティブこまきとの連携」という内容になっていますが、この担当課、主管課部署を教えてください。

また、この2つの施策について共通する部分があると思いますが、ワクティブさんと文化財団さんがお互いに情報交換などを上手にやっているか、ということをお教えてください。

【事業推進係長】

1点目の施策22と施策24の担当部署のお尋ねですが、施策としましてはいずれも文化・スポーツ課の所管の施策になります。その中で施策22におきましては、こまなびサロン、文化・スポーツ課が所管して、こまき市民文化財団に委託して運営をしていますが、市民の主体的な学習活動を支援する場として様々な講座の運営等をしております。一方で施策24に記載されておりますこまき市民交流テラス、ワクティブこまきにおきましては、支え合い協働推進課が施設の所管をしておりまして、市民活動団体のサポートなど、ボランティア活動、地域活動等の幅広い情報発信や連携を図ることを目的に令和2年9月に設置されたものです。生涯学習団体と市民活動団体相互の連携を図りまして、それぞれの得意分野を生かしながら、より効果的に地域活動等の担い手を育成していきたいと考えています。

【関委員】

こまなびの講座担当の方とは、年度の前にどういった講座をしたらよいのかということとすり合わせをさせていただいております。例えば生涯学習団体さんの悩みや課題について、ワクティブの市民活動団体さんも、例えば団体活動の継続や、コロナ禍の中でオンラインをどのように活用していこうかという悩みは同じところにあるので、お互いの団体情報を交換しながら講座の内容を決めていこうと進めさせていただいております。

7ページについては、そういったオンラインの講座ですとか、団体さんのPR講座を、情報提供をこちらからしながら、それぞれの団体さんに提供しております。

8ページにつきましては、市民の方々が窓口に来られた時に、市民の方にとっては、生涯学習なのか、市民活動なのかというのは、あまり大差がないと感じます。特に地域のサロンや協議会さんが、催し物や講座などを行う団体さんを探すときは、生涯学習団体・市民活動団体さんが両方に登録していることもあるので、迷うことが無いように情報を一元化しようということで、ワクティブこまきの方が主導になって団体情報ガイドブックのようなデータベースを作っております。それに対して、こちらの窓口で行うだけではなく、こまなびフェスティバルなど、こまなびさんの事業にもワクティブこまきとして積極的に参加させていただいて、情報交換に加え、市民の方々への啓発も一緒に行っているという状況です。

【竹中会長】

ありがとうございます。他に質問・意見はありませんか。

【後藤副会長】

5ページの生涯学習施設の環境整備の件ですが、大規模改修が始まるということで、市民団体に対して色々ご配慮いただいて、工事の進捗に合わせてできるだけ支障の無いように使えるようにしていただいて大変ありがたいと思っています。

今回、展示場がきれいになるということで結構なことだと思いますが、財団の事業報告を見せていただきますと、令和3年度の使用実績としては、展示場は226名、音楽スタジオについては年間で1万2,432名が利用されている。コロナの前は2万人を超

えており、15万人都市で2万人が窓も無く、天井が低い音楽スタジオ1室に集まって練習していました。そういう状況なので、この改修には期待をしていました。私共としては発表の場は市民会館、味岡、北里、どこでもあります。練習場所が無くて困っているので、何とか拡充をしていただきたいと思うし、できないとするならば例えば市民センターの視聴覚室、桃花台地区の小中学校などで活動ができるように、ぜひ場を作っていただきたい。本日、教育長が部活動の地域移行の話をされていましたが、本当に地域移行が進んだときに、どこで行うのでしょうか。緊急の課題だろうと思いますので、ぜひこの点は評価委員会の方にお伝えいただきたいと思います。

音楽スタジオの件は意見として聞いていただき、質問は、新しいオンラインシステムの件です。大変利便性があると思います。まだ始まったばかりなのでいろいろ問題点もあると思います。お尋ねしたいのは、今現状として、どういう問題が発生しているのかということをお聞きしたい。

【竹中会長】

事務局、回答をお願いします。

【施設運営係長】

令和5年の1月から新しいシステムが稼働して、稼働直後の1、2週間くらいの間は色々とお問い合わせが多くあり、最初はパスワードの設定や、申し込みの仕方が全然分からないという話がありましたが、丁寧に説明させていただき、使い方に関しては解消されてきたと思います。また、当然今までのやり方も残しつつ窓口での予約や支払いなども併せて行っておりますので、スマートフォンを持っていない方でも不便にならないように運用等でカバーしています。

【後藤副会長】

1点目は、減免団体は名簿・総会資料・規約、そして口座番号を提出して、ネット上で予約をするのだと思いますが、本予約やお金の支払いはもう一回窓口に行かねばならないと聞きます。つまり、せっかくのキャッシュレスというのがまだ進んでいないということ。

2点目は、オンラインだから家でも夜でもいつでもできるから、仮予約が増えて、結果的に借りようと思った幅が少なくなってしまう借りにくいという話があります。

3点目は、私もこの5年くらいずっと毎月、公民館の1日の抽選会に参加しましたが、すでに予約が入っている割合が多いです。つまり優先予約が多い。私も優先予約をお願いすることはありますが、優先予約がいけないということではなく、使用しないのに3日も4日も前から市民会館のホールなどを予約することです。何とかやりたくて仕方ないという市民のニーズにとってみると、無駄に会場がおさえられてしまうことに心配をしています。

予約システムがスムーズになることは期待していますし、さらに便利になって問題点を解決していただければうれしいです。

【竹中会長】

ありがとうございます。では、次の説明をいただいた後にまた振り返っていただくことにして、いったん先に進めさせていただきます。

事務局、基本目標 7 に関連することについてのご説明をお願いします。

【事業推進係長】

9 ページをお願いします。

基本目標 7 市民がともにつくる文化・芸術の振興の施策 2 9 「身近で良質な鑑賞機会の充実」です。

こまき市民文化財団へ補助及び委託をして、広く市民に鑑賞の機会を提供しています。バリアフリーコンサートやこまぶんフェスタの実施など、誰もが気軽に文化に触れ、文化に親しむことの楽しさを感じてもらいました。

また、中部フィルハーモニー交響楽団と連携して、今年度もこどもたちに、本物にふれてもらう機会を提供し、音楽の楽しさや魅力を伝えました。

今後も、引き続き、障害の有無などにかかわらず、文化にふれることのできる環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

10 ページをお願いします。

施策 2 9 「アウトリーチ事業の実施」です。

こまき市民文化財団と教育委員会が協力し、子どもたちが一流のアーティストと直接交流できる機会を提供しました。アウトリーチ事業に参加した、子どもたちが一度の体験で終わることなく、継続して文化活動にかかわってもらったり、ホールに足を運んでもらえるよう事業の周知などもあわせて実施してまいります。

【施設運営係長】

11 ページをお願いします。

施策 3 2 「文化・芸術施設の環境整備」です。

内容としては、観賞・創作・継承の拠点となる市民会館において、施設の利便性が向上するよう、設備や機能の充実を行っていきます。

令和 4 年度に市民会館で実施した改修工事及び設計について説明させていただきます。

ホール ITV は経年劣化により映像の状態が良くなかったため、デジタルシステムに更新する工事を行いました。

また、老朽化が進む市民会館トイレ、ホール舞台機構、ホール空調機、正面玄関建具等を更新するための設計を行いました。

市公民館と合わせて実施するトイレ改修については、和式トイレを全て洋式トイレにすることや、多目的トイレの増設及びおむつ替えスペースの増設など、様々な利用者にとって使いやすいトイレになるよう設計を行いました。市公民館の講堂・ロビーの改修につきましては、以前よりその展示スペースとしての機能について、ご利用される団体の方々より様々なご要望をいただいておりますが、今回の改修でできる限りそれらのご要望を反映させていただく形で設計を行いました。

これまでの既存の市民ギャラリーの天井の高さが十分でなく、大型作品の展示には適さなかったことや、作品の展示数に合わせて作品展を行える本格的な展示場がなかったことなどのお声をうけ、改修後は市公民館のロビーに可動壁等で構成された展示スペースを作り、その展示スペースを区分けすることで、作品展の規模に合わせてご利用していただけるようになります。また、大規模な作品展の際にはロビーだけでなく、講堂もギャラリーとしてロビーと一体化して活用することで、大きなギャラリーとしてご利用していただくことができるようになります。

また、展示作品を照らし出す照明や、作品を飾る壁の高さにも配慮し、明るいスペースで大型の作品も展示していただくことが可能になります。

こちらの詳細につきましては、本日お配りした資料に記載してあります。

今後の課題としましては、5 ページの市公民館の大規模改修のところでも説明いたしましたが、市民会館・市公民館の大規模改修工事は令和5年11月から1年間程度の予定をしているため、利用団体の日頃の活動にできる限り影響がでないよう、活動場所の確保に配慮し、令和5年夏頃に決定する予定の工事業者との工事スケジュールの調整を行っていきたいと考えております。

【事業推進係長】

12 ページをお願いします。

施策32「文化財団の活動支援」です。

記載のとおり、文化財団の主催する公演などの事業を支援してまいりました。

平成29年にこまき市民文化財団を設立してから、音楽、演劇、落語など幅広い分野で公演を実施し、市民の皆様に喜んでいただいているものと考えております。文化財団においては、工夫をこらした情報誌やSNSを積極的に活用して、情報発信に取り組んでおり、こまき市民文化財団の認知度も上がってきたと感じております。また、主催する事業だけでなく、市民の文化活動への支援等をとおして、小牧市の文化の活性化を図るとともに、市民に応援される文化財団に成長していく必要があると思います。

市としても、文化財団の支援をしながら、適切にその効果を検証し、よりよい環境とともに構築していく必要があると考えております。

以上簡単ではありますが、令和4年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてのご説明とさせていただきます。

【竹中会長】

ご説明、ありがとうございます。

基本目標7に関連する事柄でご意見、ご質問よろしく申し上げます。

【野村委員】

最後の12ページの表の中の来場者数にすごく幅があるのですが、これは定員に対してどんな状況だったのかなと思いました。特に38人の公演については、定員が初めから少なかったのでしょうか。

【事業推進係長】

定員に対してどれくらいの来場者があったのかということですが、内容や場所に応じて定員を設定しており、例えばご指摘の38人の公演であります。市民参加型のオリジナルダンス公演「マイ葬式」を実施いたしました。こちらは市民の方にも参加をいただきながら舞台を作り上げるもので、96名で設定しております。38人の来場者があったものでございます。コロナの影響もあり、定員に対しては少ない来場者になってはいますが、今後たくさんの方にご来場いただけるように、周知等に努めてまいりたいと思います。

【竹中会長】

他はいかがでしょうか。全体に関してでも結構です。

【後藤副会長】

11ページの環境整備の件ですが、先般も文化協会の50周年式典がありましたが、大変高齢の方が多いです。階段が市民会館もホールの中もすごく高くて転ばれる方がみえる。音楽連盟で座席から舞台に上がっていただくのも困難。味岡、東部市民センターにも階段がありますが、1段がすごくきつくて上がれない、などあります。特にホールについては暗いので大変苦勞をされているということなので、ぜひバリアフリーに向けてお考えいただきたいと思います。

また、文化財団が出来て6年になるのですが、資料にもあるように内容が大変多岐に渡って良いと思います。私の感想では、主催行事は一生懸命取り組んでおられるが、市民活動を支援するということについてはなかなか見えにくいように感じます。例えば、色々な主催行事やそうでないものについても、ホームページへの掲載をお願いしても、難しかったりします。例えば春日井の文化フォーラムでいえば主催行事と貸した会場での音楽会であるとか、それがプロであろうがアマチュアであろうが全部一律に紹介してもらっている。確かに市役所の方は後援をしていただくと、すぐホームページに掲載していただいて、それはありがたいことだと思いますが、1週間たつと、それが一体どこにあるのか検索するのに苦勞します。なので、やはり財団を頼りにしたいという気がします。市民活動を応援するという立場が明確に出るようにしていただきたいというのが、私共の要望です。

そこで最初の話に戻りますが、財団に対してどのような評価をされているのか、どういう方向を向こうとしているのか、お示しいただければと思います。

【事業推進係長】

こまき市民文化財団と市におきましては、目標を共有しております。今日ご審議をいただいております基本目標7「市民がともにつくる文化・芸術の振興」という大きな目標の中で、それぞれの役割に応じて文化を振興していくということでございます。市におきましては、先ほどご紹介いただきましたが、市民の文化活動におきましては後援名義を出させていただきまして、市のホームページにも掲載をさせていただいております。

市のイベントカレンダーの方にも、後援をさせていただいたイベントにつきましては日時を記載させていただいているところがございます。

今後、文化財団がこういった方向を向いていくかということでございますが、これまで様々な幅広い分野において色々な公演を企画・実施して、市民の方に喜んでいただいていると思います。ただ一方で、やはりご指摘いただいた通り、市民の文化活動の活性化というところは、両輪でやっていかなければならないというふうに市も文化財団も考えているところでありますので、今後、市民の文化活動への支援が足りないというようなご意見だと思いますが、それについても市と連携しつつ進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【竹中会長】

ありがとうございます。基本目標7に関わらず、戻っていただいても結構です。

【坂廻辺委員】

市民講座の話に戻りますが、「こまなび」という冊子、家でも保存版として置いてありますが、これは年2回発行という扱いですね。市民講座の講座名についても一昔前と比べるとずい分工夫されていて、こういうことをやるのだなということが、割とおしゃれな感じで上手にタイトルがつけてあるなあと思います。しかし、この「こまなび」を保存されているご家庭は大丈夫なのですが、新年度から広報の月2回発行が1回発行になるということで、2回発行されていた内容が月に1回に凝縮されます。SNSなどがすごく上手に使われていて、ワクティブさんなどからも来る情報で、ずい分色々なことが分かるようになりましたが、それでもまだまだ精通されてない方もあると思いますので、今後の広報の紙面がどのように変わっていくのかということが、期待とともに不安でもありますので、そのあたりを上手に行ってほしいと思います。これはお願いです。

【竹中会長】

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。では、私からお願いします。

指標のところでお話がありましたが、一つ一つを見たときには分かりますが、全体を通してどういう課題を抽出されているのか。手垢のついた言葉になりますけれどもPDCAサイクルといったような、これが結果的に繋がって、ここからどのように次に繋がっていくのか、ということが大事だと思いますので、その辺りをどういうふうに統括されているのかということをお願いしたいと思っております。

個人的に言いますと、コロナでいったん下がって、また盛り返ってきてはいるのですが、関与している市民の割合だとかそういったものがなかなか戻り切れていない、実数としたら人数は何人かは増えてきているけども、実は特定の人だけが参加しているだけで広がりがなくなっている、戻り切れていないのかなという気もしています。

ということで、どのように統括されているかお聞かせください。

【事業推進係長】

基本目標５生涯学習の振興につきましては、特に生涯学習に取り組んでいる市民の割合というのがまだまだ低い数値を示しているというように考えております。令和３年度で２８．２％ということでお伝えしましたが。実は生涯学習活動といいますと、講座を受講するだけが生涯学習活動ではなくて、主体的に何かを学びたいと行動を起こしたもののについては生涯学習というように捉えていただければと思います。まだ指標の取り方が、若干伝わっていないように感じておりますが、やはりこの生涯学習に取り組んでいる市民の割合というのを、いかに高めていくかというところが今後の取り組みの大事なところになってくるかと思っております。

文化振興におきましても、日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合であるとか、創作活動を行っている市民の割合、実際に活動をしている市民の割合というところを、同じく高めていかなければならないというふうに思っています。

現状、文化財団の事業等を通して、市民の方にそういった取り組みに対するきっかけ作りというところに力を入れているというふうに思っております。生涯学習をやってみようかな、文化に触れてみようかなというきっかけをしっかりと提供させていただいて、今後の取り組みに繋げていただくということが一番大事なことなのだろうと思っておりますので、そういった意味で、活動をまず知ってもらう、周知をしっかりとしていく、やっている内容をまず見てもらうということ、今後財団とともに連携して実施をしてまいりたいと考えております。

【竹中会長】

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

【鳥居委員】

生涯学習という言葉を変えた方がいいのではないかと思います。何かもっと「生きるのを楽しもう」とか、面白いタイトル・名称に変えると、ずい分若い人の印象も変わるのではないかなと思います。講座のタイトルは、随分工夫されている。こういうノリで生涯学習とか色々なものを、何か面白そうだなというように思わせるような言葉を展開していくと良いのではないかと。私はずっと広告の仕事に携わっていましたので、その辺で、人を引き込むような工夫があるといいかなと思いました。

【竹中会長】

ありがとうございます。

他にご意見はありませんか。では、特にご意見もないようですので、ただいまご審議いただいた議題（１）令和４年度事務の管理・執行状況の点検及び評価については、本日のご意見等を踏まえて事務局で取りまとめをいただき、小牧市教育振興基本計画推進会議及び評価委員会に提出してよろしいですか。

— 全員了承 —

【竹中会長】

では、異議なしということで、次の議題に入りたいと思います。

それでは、（２）「令和５年度教育委員会基本方針重点施策について」、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

【事業推進係長】

資料２の１ページをお願いいたします。

１、小牧市教育委員会基本方針の位置付けといたしまして、小牧市教育振興基本計画との関係性を記載しております。

あらためてご説明いたしますが、教育振興基本計画は、平成２９年度から令和８年度までの１０年間の方向性を示しており、本市の教育が目指す方向や具体的な施策を明らかにしております。一方、この教育委員会基本方針は、この１０年間で示された施策、取り組みのうち、令和５年度の予算状況等を勘案して、令和５年度における重点施策を取り出しております。

教育振興基本計画が１０年間という長期的なものであるのに対して、教育委員会基本方針は、単年度に実施する、より具体的な施策を示したものとなっております。

続いて、２ 令和５年度の重点施策として、

基本目標５、「豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり」の具体的な取組として、市民講座の実施をはじめ６つの取組を掲げさせていただいております。

表の４つ目、２ページになりますが、地域学習活動の推進では、コロナ禍で地域での学び、学習活動が落ち込んでいます。あらためて、地域３あい活動の実施や地域協議会等と連携して、地域での学習活動を推進し、学びを通じて、つながりや支えあいなどのコミュニティづくりをしていく必要があると考えています。

続いて、基本目標７「市民がともにつくる文化・芸術の振興」では、引き続き、こまき市民文化財団を支援し、連携し、市民にとって文化がより身近なものとなるよう事業を進めていきたいと考えております。

そして、表の３段目、市民文化活動への支援と掲げさせていただきました。新型コロナウイルスの影響を最も受けたのは、市民の文化活動であったと思います。感染拡大に伴う休館などにより、活動場所も確保することができないような状況も続き、活動自体を存続することができない団体もあったと聞いています。あらためて、市民の文化活動をどうすれば、支えていくことができるのか、文化団体の声も聞きながら支援の方策を検討していく必要があると考えています。

以上簡単ではございますが、令和５年度教育委員会基本方針重点施策の説明とさせていただきます。

【竹中会長】

ありがとうございます。

事務局から説明が終わりました。何かご意見・ご質問はございませんか。

【関委員】

今年度、こまき団体情報ガイドブックの更新を行っております。3年に1回更新するということで、約500団体の情報の更新ですとか、取り消し等がないかということで、今情報を集めています。まだ統計はとっておりませんが、非常に多くの団体さんが、コロナ禍で活動を休止して解散してしまったということで、掲載の取り消しを求めてご連絡をいただいている状況ではあります。実際に地域でも高齢化し、担い手がないという形で、コロナとは別にそういった大きな課題もあります。今こまき市民活動ネットワーク、ワクティブこまき両方で、若い方たちの人材育成をいかにやっていくかというテーマで、事務局内でも話をしながら活動していますが、先ほど委員の方から生涯学習というキーワードが、なかなか若い方に浸透しないのではないかという意見もありました。ワクティブもあまり市民活動、ボランティアというのを前に出すとなかなかハードルが高いというようなこともあり、別の機会で、先日、中心市街地のワークショップなどに関わると、まちづくりとあまり出さずにオープンチャットなんかで人を集めるみたいで。結構若い方たちが集まって来たりするようで、やはりどのような切り口で若い方たちが興味を示すかということだと思います。

後は「きっかけ」の話がさきほどありましたが、例えばそういった講座に出られた方たちの参加したいという思いを育てていくというのは非常に時間がかかることではあります。そういったことを行いながら、既存の団体さんに入るのも方法ですし、既存の活動に入るというのは、なかなか今ハードルが高いことではあるので、いかにきっかけをつかんだ人たちが、新しく活動を始めていけるかという、その辺りのハードルをできるだけ低くして、色んな方々が参加できるようにしていく、また市公民館の講堂のようにリニューアルされた施設には人が集まって来るといったようなこともきっかけになると思うので、その辺りも、ワクティブも含めて工夫していければとは思っております。例えば市民会館の利用の仕方といったことも、内容を共有させていただいて、ワクティブも協力させていただけたらと考えています。

【竹中会長】

ありがとうございます。では、その他ありませんか。

【水野委員】

施策に市民講座の実施というのがあります。先ほど受講者の年齢層の話があり、受講者は高齢の方が多いということですが、今実際に講師として登録されている、実際に行っておられる方の年齢層もやはり同じように高齢じゃないかと推測できます。そういう意味では、若い人たちをもっと引き付けるためには、講師の方も若い人たちに来てもらうような手立てが考えられないのかということを思います。そうすればもう少し若年層の方も講座に参加するのではないかなという感じがしますが、いかがでしょうか。

【竹中会長】

事務局お願いします。

【事業推進係長】

市民講座におきまして、講師も高齢化しているのではというご指摘をいただきましたが、ご指摘の通り講師も比較的年齢の高い方が多いと聞いております。若い方に公民館に来ていただくために、それぞれの公民館、こまなびでも、様々な企画をしており、市民企画講座以外にも、今日の資料1－2をご覧くださいますと、公民館の主催講座といったしまして、職員が企画をして実施をしているものでありまして、こういった中では例えばこまなびの講座であったり、先ほどきっかけ作りということでお伝えしましたが、まず公民館に足を運んでいただいて生涯学習に触れてもらうために、若い方にも興味を持ってもらえる様々な企画の実施を今後も引き続き行っていきたいと思っております。

【竹中会長】

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

【野村委員】

基本目標5に記載の、誰もが学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境というフレーズが、とてもいいと思います。先日、主任児童委員という職をお引き受けしまして、新任対象の主任児童委員の講座がありましたが、本来名古屋などに行き講座を受けていたらしいのですが、それがコロナの影響かオンラインで聞けることとなり、市役所にメールをすると、ここをクリックして、このパスワードを入れてくださいという返信が来まして、2週間くらいの間いつでも講義を聞くことができました。やはり働いているので、この日のこの時間に市役所に来てくださいと言われても、仕事の都合で行けなかったりする場合もあります。しかし土日が2回くらい入っていて2週間くらい余裕があると時間を分けて全部見る事ができたので、そのような試みも取り入れてみてはどうかと思いました。以上です。

【竹中会長】

ありがとうございます。

【後藤副会長】

施策の31の市民文化活動支援ということで、先ほどからお話があるようにコロナに対して色々再開できるようにご配慮いただいていることは大変ありがたいことだと思っています。

文化財団の活動支援に関わることですが、部屋を貸して後は市民活動を自分たちでやれば良いというだけでは新しいアイディアがなかなか生まれてきません。去年、春日井の文化財団を見たのですが、そこにも相談支援がありますが、職員が知恵を蓄えてそして自分たちが舞台芸術などに培ったアイディアを市民の方々と一緒になって支援するというように書いてあって、これはいいことだと思いました。財団の皆さんにもそういったことについて学んでいただいたものをまた私どもに教えていただける、それが本当の支援かなという感じを持つので、期待をこめてお願いしたいと思っております。

また、お話があるように高齢化が進んでいて、文化協会に象徴されるように、もう新しい方々が入ってきません。そういう意味で、先々本当にどうしていくのか、やはり10年先20年先を考えたものが必要だと思います。一方で、図書館が新しくなって、旧図書館と比べて来館する年齢層がまるで違って10代、20代の人で溢れ返っています。ということは、新しくなって、みんなすごく魅力を感じて自然と人が集まっているということだと思います。先日、小牧市東部市民センターで高蔵寺ニュータウンが新しく小学校を廃校にしてその中にみんなが集まる文化施設を作り、それを桃花台のニュータウンの方にもというような話を、という講演がありましたが、やはり新しく引き付ける箱物がなければ人は集まらないということを一方では感じます。結論的には、先のことを考えていかないと人が集まらなくなって、文化そのものの形も変わってしまうのではないかと心配しています。

【竹中会長】

ありがとうございます。

私から2点です。1点目は、市民企画講座をどう拡充していくかというところで、講座というものをどう位置づけるかにもよりますが、どうしても熟達された方が教えるというイメージが強いので、若い人はなかなか入って来にくいかなという気がします。なので、そのイメージを壊していくといいますか、積極的に若い人を取り込んでサポートしていくと、プロデュースしていくような、講座、取組のようなものも必要かと思います。つまり何かを教えなくてもみんなが集まって、一緒に何かしようよというような、フリーであってもいいみたいなどころがあると、最近多いと言われている社会貢献したいと思う高校生、大学生層を取り入れていけるのかと思います。

2点目は、先程の言葉遣いの話にもありましたが、行政として出来るという意味ではあまり崩し切れないこともあるとは思いますが、一歩踏み出す勇気も必要なのかなと思います。

【関委員】

文化芸術や色々な側面でSDGsというものが活用できると思います。最近私たちによく話があるというのが、サステナブルという言葉があり、持続可能ということなんですけれども、SDGsの番号を出して覚えようということではなくて、せっかく小牧市が取り組んでいるので、今のお話の中でやっぱりそういった文化芸術も含めて、いかにこの持続可能な街を作っていくのかという、その文化を残していく、次の世代、2030年以降の世代にこれをどのように残していったらいいのかみんな考えようという視点が必要だと思います。例えば若い方たちが入らないということではなく、今あなたがしている活動をどのように残していくかというような視点で考えるというところで、サステナブルというキーワードで皆さんと同じ方向を見ていける可能性があるかなということは感じました。

【竹中会長】

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

何もないようですので、只今ご審議いただいた議題（２）「令和５年度教育委員会基本方針重点施策について」は、本日のご意見等をふまえ、事務局でとりまとめた後、定例教育委員会に提出してよろしいですか。

— 全員了承 —

【竹中会長】

本日の議事はすべて終了いたしました。進行を事務局にお返しします。

【文化・スポーツ課長】

ありがとうございました。３．その他ですが、本日は特に用意がありませんので、これもちまして、令和４年度第１回小牧市生涯学習審議会を終了させていただきます。